

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 繰り返しのある詩の比較を通して、詩の情景や心情に迫ろう

「落葉松」（新しい国語2 東京書籍）

「風景 純銀もぎいく」（青空文庫）

「大阿蘇」（岩波文庫）

2 単元について

「落葉松」は、五七調のリズムからなる文語定型詩である。日本の詩歌に受け継がれてきた五音、七音のリズムを感じ取り、文語の格調高さに触れることのできる題材であると考えられる。しかし、文語調の言葉の難しさ故に生徒たちが少し拒否感をもつ作品でもある。そこで、本単元では、「落葉松」の表現技法の一つである反復に着目し、似たような他の詩と比較することを通して、詩の情景や心情に迫っていこうと考えた。

まず、最初に「風景 純銀もぎいく」との比較を通して、全く同じ言葉の繰り返しと少し変化のある言葉の繰り返し、繰り返されている部分と繰り返し以外の部分の関係などに注目させる。その際、その情景を見ている人物の位置の違いに気づかせることで、同じように反復という技法を使っているにもかかわらずその効果に違いがあることを感じ取らせる。

反復という表現技法の捉え方を習得した上で、次に「大阿蘇」との比較をする。比較によって情景の違いを捉え、それぞれの情景と作者の心情が表現されている部分をつないで考えさせる。反復を使い、同じ情景の広がり表現した「大阿蘇」の詩と比較することで、ささやかな変化の中で自然のもつ情趣を感じ取った「落葉松」の作者の心情を表した「あはれ」「うれし」という言葉のイメージを的確に捉えさせることができる。

3 単元の目標

- ・詩の中に使われている言葉の使われ方や意味を理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】
- ・詩の表現に注目しながら、詩に描かれた情景や心情を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・詩の中の表現技法を積極的に探し、その工夫について考えることができる。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・詩の中に使われている様々な言葉の使われ方を理解している。（1）エ	・詩の比較を行いながら表現技法の効果について理解している。C（1）エ	・詩に使われた表現技法にはどんな効果があるか自分なりの意見をもとうとしている。

5 単元の学習指導計画（全2時間）

- （1）「落葉松」と「風景 純銀もぎいく」と比較し情景を捉える。（習得）1時間（本時）
- （2）「大阿蘇」と比較し心情を捉える。（活用）1時間

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 繰り返しに着目し、作者の位置や詩の情景の変化に気づくことを通して、表現技法には様々な効果があることを捉えることができる。

(2) 学習指導過程

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
1 「落葉松」の詩を読み、印象を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ なんか暗そうな感じがする。 ・ 落葉松が何度も出てくる。反復法だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の印象を短い言葉で発表させる。 ・ 同じ言葉の繰り返しが多いことに注目させる。
【学習課題】 繰り返しの秘密を探れ。		
2 学習課題を確認する。 3 反復が使われている詩「風景 純銀もぎいく」を読んで考える。 (1) 共通点・相違点を考える。 (2) 人物の位置について考える。 (3) 繰り返されていない部分について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どちらも風景についての言葉を繰り返して使っている。 ・ 風景の方は明るい感じがするけれど、落葉松の方は暗い感じがする。 ・ 風景は菜の花畑を見渡しているけれど、落葉松は風景の中にいるな。 ・ 繰り返しの以外の部分でも風景について書かれている。 ・ 心情についても書かれているぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの詩を比べ、共通点、相違点を見つけ、ワークシートに書かせる。 ・ どちらも詩の形式は定型詩であることに気づかせる。 ・ 風景を見渡している人物と、その風景の中を歩いている人物の位置の違いに気づき、同じように繰り返しが多く使われていても、表現されることには違いがあることに気づかせる。 ・ 「落葉松」の詩は繰り返されている言葉の微妙な変化と、繰り返されていない言葉から、同じ落葉松の林の中の変化を上手に表していることを知る。
4 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返すことで風景の広がりや人物の立ち位置の違いを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反復に注目したり、二つの詩を比較したりして気づいたことについて書かせる。

(3) 評価

- ・ 繰り返しをもとに、表現技法には様々な効果があることを理解できたか。(ワークシート、発表)